

## 肺非結核性抗酸菌症(MAC症)について

診療部長 佐藤敦夫



日本では結核患者さんが減る一方で、非結核性抗酸菌症は年々増えています。昨年の全国調査でとうとう非結核性抗酸菌症の罹患率が結核の罹患率を超えたと報告されました。現在10万人あたり、毎年十数名の方が非結核性抗酸菌症を発病して



います。なぜ非結核性抗酸菌症が増えているのか、その理由はよくわかっていません。

さて、では抗酸菌とはどんなものなのでしょうか。

抗酸菌細胞壁の外側は多量のワックスで覆われています。このワックスは一旦染色されると酸を加えても脱色されません。これは抗酸性と呼ばれています。そしてこれが抗酸菌の名前の由来です。この丈夫なワックスの鎧を武器に、抗酸菌の多くは、土壌や、水の中で生活しています。らい菌群、結核菌群は、数万年前にヒトの寄生菌へと進化した比較的新しい抗酸菌です。非結核性抗酸菌はらい菌群、結核菌群以外の抗酸菌の総称ですが、実はこちらが抗酸菌の本家本元なのです。

ヒトに病気を起こす非結核性抗酸菌の代表が *M. avium* と *M. intracellular* という菌です。同じような病気を生じることから、両方をまとめて、*M. avium* complex、略してMACと呼ぶことが多くなっています。ヒトに起きる非結核性抗酸菌症の概ね8割がMACによる感染で、非結核性抗酸菌症

の中でも、とりわけMAC症が増えているのです。

MAC症は、後天的免疫不全症(AIDS)に合併し腸管から感染して菌血症を生じるタイプと、特に免疫異常のない人に気道から感染し肺に病変が限局するタイプにまず分けられます。さらに肺に病変が限局するタイプは、高齢男性に多く、肺気腫や結核後遺症など傷んだ肺に生じ結核とよく似た空洞病変を生じる線維空洞型(結核類似型)と、中高年の女性に多く、中葉

や舌区を中心に病変を生じ気管支拡張症を伴う結節気管支拡張型(中葉舌区型)の二つに分けられて



います。前者は一種類の菌がどんどん病気を悪化させるのですが、後者では複数の菌が入れ替わりながら病気を悪化させる点が異なります。

結核菌と異なり、ヒトからヒトに伝染することはなく、水や土壌に住んでいる菌を吸い込んで病気が起こると考えられています。結核菌と比べると弱毒菌で、5年、10年かけて徐々に肺の中で病気が広がってゆくことが多く、この病気が寿命に影響することはむしろ少ないとされています。しかし、発病が若年だったり、病気の進行が速い場合には治療が必要です。3から4種類の薬を2年間投与するのが標準的な治療です。勝手に薬を減らしたり、飲んだり飲まなかったりすると、薬の効かない菌にしてしまう事が知られています。飲むのであればきちんと服用することが大事です。

日常生活では、菌に対する抵抗力を維持すること、菌を新たに吸い込まないことが大切です。体重を維持すること、過労、睡眠不足などのストレスを避けること、園芸の際には、水しぶきや土埃を避けることをお勧めしています。



## 「摂食・嚥下障害看護認定看護師が誕生しました」



西病棟1階 副看護師長 片岡康子

私が摂食・嚥下障害看護に興味を持ったきっかけは重症心身障害児（者）病棟で働き出し、摂食嚥下に関する研修を受けたことでした。重症心身障害児（者）病棟の患者さんの食事の摂取方法は特殊で、食べたものを咀嚼せずに丸飲み込みをしていたり、仰向けで口を開けたまま、むせずに水分を飲んだり、最初は驚きの連続でした。それらが、成長発達の過程で個々が獲得したその人なりの食べ方なのだとは理解できましたが、誤嚥や窒息などのリスクが常に隣り合わせです。「食べる」という行為は、人が生きていくために必要な栄養を補うだけでなく、人が兼ね備えている「食べたい」という欲求を満たし、その満足感は生きる意欲へも繋がります。しかし身体の予備能力の低い重症児者が容易に体調を崩し絶食の期間が長引いた結果、「食べる」機能自体が著しく後退し、経口摂取ができなくなったケースも体験しました。



「食べる」機能の低下により食べたくても食べられない患者さんや誤嚥や窒息のリスクが高い患者さんに対して何かできることはないかという思いがきっかけとなり、周囲の協力もあって、この度摂食・嚥下障害看護認定看護師の資格を得ることができました。

では摂食・嚥下障害看護認定看護師の役割について簡単に説明します。まず摂食嚥下機能に障害のある患者さんの機能評価。次に機能障害に対する訓練の実施、経口摂取再開の支援、摂食嚥下障害のある方が食べ続けるために必要なリスク管理、最期まで味わう楽しみを提供するための支援といった実践。そして患者さんに関わるスタッフが同様に実践できるよう指導したり、相談を受けたりというのが大きな役割になります。当院には重症児者だけでなく、呼吸器疾患や神経筋疾患の患者さんがおられ、認定看護師の活動対象は多く、その必要性を強く感じています。また、これらの活動を実践していくには、患者さんを中心とした多職種との連携も重要です。患者さん個々の目標設定を行い、それに向かって多職種が協同して患者さんをサポートする体制作りもしていきたいと考えています。

今は不安も大きいですが、一人でも多くの患者さんの支援ができるよう活動していきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

## 「感染管理認定看護師が誕生しました」



感染管理認定看護師 宮川英和

私は平成27年9月から6ヶ月間、公益社団法人看護協会神戸研修センターの感染管理認定看護師教育課程研修に行かせていただき、平成28年度認定審査を受け感染管理認定看護師となることができました。感染管理研修には全国の様々な施設から、同じ目標を持つ仲間30名が集まりました。6ヶ月の研修は想像以上に忙しく、課題に追われる日々には落ち込む事もありましたが、研修センターの先生方や仲間に助けられ研修を終えることができました。神戸で学んだ6ヶ月間は、私にとって濃密で、かけがえのない時間になりました。



研修センターがある神戸の街は、東洋系外国人も多く活気に溢れ刺激的な雰囲気でした。新しく大きなビルが建ち並び、高層ビルの屋上にはヘリポートが付いているのが印象的

でした。医療施設も多く、ポートアイランドはメディカルタウンのようになっています。阪神淡路大震災の辛い経験を教訓とし、復興を遂げたのが感じられました。

感染対策においても、アウトブレイクという辛い体験から学ぶべきことが多いと思います。医療施設間で情報を共有し、他施設で起こった出来事も「対岸の火事」と捉えず、自施設の感染対策に活かすことが大切だと思っています。

認定看護師の担うべき役割に、実践、相談、指導という3つの柱があります。この役割を果たすため様々な活動

を行い、南京都病院の感染管理活動を推進したいと考えています。医療施設に入院される患者さんは、治療や療養を目的に入院されます。患者さんが、本来受けるべき治療に専念できる環境を提供する為には、安全な入院環境を保つ必要があります。この点から院内感染の抑制は大切だと思っています。感染管理を通じ、患者さん、職員、組織にとっての安全を、職員の方々と共に考えていきたいと思っています。

感染担当看護師として活動し始めたばかりでまだまだ未熟ですが、感染管理活動に努力をしていきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。



看護協会神戸研修センター



研修センターから神戸の街並

## 地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

わかりやすく丁寧な説明を心がけ、地域の皆様に安心してご利用いただけるクリニックを目指しています

### 大原クリニック

内科・神経内科・脳卒中科

院長 大原 亮 先生



平成27年4月に、父が開設した大原診療所を改め大原クリニックとして継承させていただきました。京都府立医科大学を卒業後、母校の神経内科に入局し、その後大学病院、関連病院にて神経内科疾患、脳卒中を中心に診療を行って参りました。高血圧症、脂質代謝異常、糖尿病などの生活習慣病などの一般内科に加え、専門医である神経内科疾患、脳卒中を中心に診療を行っています。

今後ますます進む高齢化社会に伴い、認知症、脳卒中、パーキンソン病などの神経内科疾患が増加することが予想されますが、神経内科医は比較的少ないのが現状です。

南京都病院には認知症の診断に必要な頭部MRI、脳血流SPECT検査などで大変御世話になっています。今後も連携を強化させていただき、地域の皆様の健康増進に少しでもお役に立てるよう全力を尽くしたいと考えます。またわかりやすく丁寧な説明を心がけ、地域の皆様に安心してご利用いただけるクリニックを目指しています。

- 京都府城陽市寺田今堀152-38
- TEL 0774-54-0148
- FAX 0774-54-0090

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前診 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	×
午後診 16:30~19:30	○	○	×	○	○	×	×

- 休診日 日・祝、水・土の午後



安心できる在宅生活を応援します

### 訪問看護はーとステーション

訪問看護



こんにちは、訪問看護はーとステーションです。当ステーションは平成27年4月に開設し、今年2年目を迎えました。多くの方に支えていただきながら、地域で訪問看護を必要としている方々を応援しています。

職場内はよく話し、よく考え、よく笑う明るい雰囲気の中、ご利用者・ご家族の思いを大切に“安心できる在宅生活”を目指しています。

24時間体制を整え、開設当初から力を入れている看取りケアと認知症ケアは、ご好評いただいております。看取りケアは、ご利用者・ご家族の思いを受け止め、主治医・ケアマネジャーとの連携を図り、精神面のサポートを十分に行っています。「家で送ってあげることが出来て良かった」とご家族の言葉をお聞きした時は、関わらせていただいたことに深く感謝いたしました。

認知症ケアでは、ご利用者の不安な気持ちを受け止め共感しながら、興味のあることから介入し精神面の安定を図っています。ご家族に対しては、認知症は病気であることを理解していただき、根気よく精神面のサポートを行っています。「落ち着いた生活が送れるようになった」とのお声も数件いただいております。

訪問看護はーとステーションは、これからも地域の皆様の応援者として、笑顔をお届けすると共に、安心した生活が送れるよう“質のレベルアップ”に努めてまいります。そして主治医・ケアマネジャーの良きパートナーとして連携を図っていきたいと思っています。今後共ご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

- 宇治市広野町中島33-2
- TEL 0774-66-7770
- FAX 0774-66-7771
- 営業日・営業時間
- 平日 午前9:00~午後5:30
- 土曜日 午前9:00~午後12:30
- 定休日 日曜日・祝日
- 年末年始休日 12/30~1/3
- ※(24時間緊急対応可能)



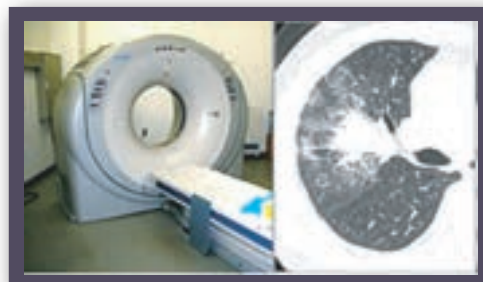
## 放射線科の仕事について

放射線科 副診療放射線技師長 宇谷博文

放射線科では診療放射線技師と放射線科医師、および各科医師や看護師などのメディカルスタッフと協力して画像診断や画像を伴う治療などを行っています。今回は特に地域の医療機関より依頼を受けて主に放射線技師が撮影を担当し放射線専門医が診断を行なっている検査について説明します。

### CT検査

頭部では外傷から出血、梗塞、腫瘍、アルツハイマーなどの変性疾患などで検査します。現在ではMRIがより精密検査として行われますが、MRIにくらべ検査時間が短いため救急時や安静を保てない方、ペースメーカーがありMRIができない方には有効です。胸部では多くの呼吸器疾患が対象になります。1mm以下の分解能があり微小な変化も捉えることが可能なため胸部X線撮影では見つけられない小さな早期肺癌を見つけて治療に導くことができます。胸部CTは最近早期肺癌が増えているため当院で最も多く行われるCT検査です。早期に発見された肺癌は最近の治療技術の進歩により治療成績が徐々に向上しています。腹部では肝臓、胆のう、すい臓、腎臓、膀胱など臓器、大動脈などの血管からスクリーニングまで使用されます。さらに詳しく検査するために造影剤を使用することもあります。



### MRI検査

頭部ではスクリーニングから精密検査までよく行われます。造影剤を使用しないで頭部血管を描出するMRAも同時に撮影できます。最近では認知症に対して行うことも増えてきました。腹部では肝臓、胆管系のMRCP検査がよく行われます。骨盤ではCTよりも有効なことが多く、子宮筋腫等子宮卵巣対象の婦人科疾患や高齢男性の前立腺疾患ではなくてはならない検査です。被曝も無いため小児や女性にも安心して検査を受けてもらえます。整形外科領域では腰椎から関節までさまざまな疾患が対象となります。直接脊髄や靭帯、筋肉、半月板などを写すことができ、微小骨折ではCTよりも検出率は上回ります。



### 骨密度検査

DEXA検査ともいいます。骨のカルシウムが減少し骨折を起こしやすくなる骨粗しょう症で行います。女性の方は閉経後特に骨のカルシウムが減少するため骨折のリスクが増えます。定期的に測定することが望ましいです。検査は5分ほど寝ていただくだけです。



### RI検査

アイソトープ検査ともいいます。静脈注射が必要です。悪性腫瘍の骨転移全身検査がよく行われていました。最近ではPET検査に押されて減少していますが乳がんや前立腺がんではPETで分かりにくい造骨性転移の検出に骨シンチが有効と言われています。認知症関連疾患が対象の検査が最近増えておりアルツハイマー病やレビー小体型認知症、パーキンソン病関連疾患で、脳血流シンチ、MIBG検査、ダットスキャン検査を行っています。どの検査も検査技術の進歩により統計画像処理のコンピュータ解析をあわせて行い診断能が向上してきています。2014年よりドネペジルがアルツハイマー型認知症だけでなくレビー小体型認知症でも保険適応になるなど薬物療法も進歩しているため客観的評価が可能な検査として注目されています。



# 地域に根ざした健康増進プロジェクト始めました

— 青谷健やかゼミナール『呼吸器の病気の話』 —



副院長 坪井 知正

平成28年7月7日、青谷コミュニティーセンターに20人近くの方々にお越しいただき、禁煙外来ナースから「禁煙のお話」と呼吸器科医師から「SAS（睡眠時無呼吸症候群）とCOPD（肺気腫など）のお話」をさせていただきました。あわせて、呼気CO（タバコの害の程度を判定）、呼吸機能（肺活量など）、血中の酸素飽和度を測定しました。また、嚥下機能訓練でもある「SAS体操」の実習を受けていただきました。大きな反響がありましたので、今後も、地域の皆様の健康の増進に少しでも貢献できるよう努めてまいりたいと考えております。



\* 講演などのご希望があれば、お気軽にご連絡ください \*

## 『健康フェア』～笑顔は健康なからだから～ 開催します!

南京都病院は地域の皆さんの健康管理のお役に立ちたいと思っています。

日時：平成28年11月5日(土) 10時～16時

場所：アル・プラザ城陽 1階プラムコート

内容：骨密度測定・血圧測定・呼吸機能検査・血管年齢測定・キッズ写真コーナー等

(無料)

健康フェアスタッフ一同



前回の開催の様子

### 交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR学研都市線 京田辺から
- JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

\*... 各駅より送迎車あり

### 診療科のご案内

- |                           |                           |                      |
|---------------------------|---------------------------|----------------------|
| ● 呼吸器科                    | ● 神経内科                    | ● 小児科                |
| ● 内科                      | ● 外科                      | ● 消化器科               |
| ● 呼吸器外科                   | ● 循環器科                    | ● 整形外科               |
| ● 皮膚科                     | ● リハビリテーション科              | ● 放射線科               |
| ● 麻酔科                     | ● 歯科                      | ● 耳鼻いんこう科            |
| <small>(入院患者のみ対象)</small> | <small>(入院患者のみ対象)</small> | <small>(休診中)</small> |

## 独立行政法人国立病院機構 南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中芦原 11 番地  
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765  
URL <http://mkyoto-hosp.jp/>

- 地域医療連携室
- ダイヤルイン 0774-52-0114 (内線 231)
  - 直通 FAX 0774-58-0270
  - E-mail [renkei@mkyoto.hosp.go.jp](mailto:renkei@mkyoto.hosp.go.jp)